

(福祉専門課程介護福祉学科) 令和4年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人間の理解	人権思想の歴史的展開や福祉理念の変遷とともに、人間の尊厳や人権、権利擁護について講義し、自立支援の関係を理解することで適応能力が養われるようにする。	1前	30	2	○			○		○		
○			人間関係論	対人関係を形成するためのコミュニケーションの基礎が習得出来るように講義をする。また、基本的態度や援助関係のための原則が習得できるようにする。	1後	30	2	○	○		○			○	
○			チームマネジメント	介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景を解説し、協働のあり方、チームの実践力の向上につながる人材育成、自己研鑽について講義する。	2通	30	2	○			○			○	
○			社会の理解Ⅰ	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養えるように講義し、対象者の生活の場としての地域という観点から地域包括ケアの基礎的な知識が理解出来る様に講義する。社会保障制度の基本的な考え方としくみについて説明し、現状や課題を捉えられるようにする。	1前	30	2	○			○				○
○			社会の理解Ⅱ	高齢者保健福祉制度、介護保険制度、障害者保険福祉制度の内容及び権利擁護や個人情報保護が理解出来る様にする。	1後	30	2	○			○				○
	○		法と人権	社会生活において法の作用や役割・人権について理解すると同時に、憲法と関係する法の基礎を理解し、介護福祉士として又は社会人として必要な法律の基礎を学び、人権意識の重要性を学ぶ	1前	30	2	○			○				○
		○	生活と文化 (音楽療法)	音や音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを体験し、音や音楽によるノンバーバルコミュニケーションの可能性を理解するとともに、自分自身の発見や他者理解を深める。ワークショップ中心の講義。	2通	30	1		○		○				○
		○	生活と文化 (栄養・調理)	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めて、介護の基礎となる家庭生活に関する食事の知識、調理の技術を習得させ、個人に応じた介護支援ができる能力を養う。	1前	30		1	○		○				○
		○	情報処理	文書作成ソフト(word)、表計算ソフト(excel)、プレゼンテーションソフト(Powerpoint)を使用し、社会人としてまた福祉現場で必要な書類等が作成できることを目標とする実習中心の授業	2通	30	1		○		○				○
		○	福祉と文化	介護福祉士として期待される教養として昭和史を学び、介護福祉士として期待される教養としての知識を身につけ生活支援技術の学習の水路付けを目的とする。	2後	30	2		○		○				○

○		介護の基本Ⅰ	介護福祉の基本として成り立ち及び概念の変遷を講義し、介護福祉士の役割を理解出来る様に講義する。介護福祉士の倫理日本介護福祉士会倫理綱領を通して理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成でき、自立支援をICFの視点から講義する。	1通	60	4	○		○	○								
○		介護の基本Ⅱ	介護を受けて生活する人および生活を解説し、フォーマル及びインフォーマルな支援、地域連携について講義する。介護における安全性及び介護従事者の健康管理が理解でき、リスクマネジメント及び自身のこころと身体健康管理と労働環境の両面から学べるように講義する。	2通	60	4	○		○	○								
○		レクリエーションⅠ	利用者個人の自立を目標としたレクリエーション活動の支援方法について学び、福祉現場に即したレクリエーション活動の能力と実践援助能力を習得する。	1後	30	1	△	○		○					○	○		
○		レクリエーションⅡ	社会福祉サービスにおけるレクリエーションの位置づけを明確にする。現場に即したレクリエーション活動の能力と実践力を習得する。	2通	30	1	○			○					○	○		
○		コミュニケーション技術総論	コミュニケーションの意義や援助関係の構築をするための基本的な知識を習得する。	1前	30	1		○		○						○		
○		コミュニケーション技術各論Ⅰ	様々なコミュニケーション障害のある人の特性と支援方法を演習を通して理解させ、利用者の家族とのかかわり方やチーム力を高めるコミュニケーション方法を講義する。	1後	30	1	△	○		○						○		
○		コミュニケーション技術各論Ⅱ (聴覚又は視覚)	聴覚障害について学び、聴覚障害者とのコミュニケーション技術の方法と内容を学ぶ。簡単な手話表現と読み取り。	2前	15	1		○		○						○		
○		生活支援技術Ⅰ	ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を講義し、居住環境、福祉用具を整備するとともに、「移動」における介護技術についての講義および演習を通して習得できるようにする。福祉用具、家事支援における介護技術および応急手当や緊急時の対応、被災地での活動に伴う生活支援について講義し、演習を通して習得できるようにする。	1通	120	4	△	○		○						○		
○		生活支援技術Ⅱ	利用者の状態に応じた身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠について演習を通して習得できるようにする。また人生の最終段階における介護について、対象者だけでなく家族のケアについて講義する	2通	120	4	△	○		○						○		
○		生活支援技術Ⅲ-1	障害や疾病により生活上の困りごとを理解するために、医学的・心理的側面から概要を講義し、介護福祉士としてどのようなかかわりができるのかを事例を交えながら講義と演習を行う。	1後	30	1	△	○		○						○		
○		生活支援技術Ⅲ-2	障害や疾病により生活上の困りごとを支援する介護福祉士として、どのようなかかわりができるのかを事例を交えながら講義と演習を行う。	2通	30	1	△	○		○						○		
○		介護過程の基礎Ⅰ	介護実践における介護過程の意義と基礎的な理解をふまえ、本人の望む生活の実現に向けて介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する。	1前	30	2	○			○						○		

○		介護過程の基礎Ⅱ	介護サービス計画や協働するほかの専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解し、介護過程とチームアプローチの重要性を理解する。	1後	30	2	○		○	○								
○		介護過程事例演習	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。在宅、施設等様々な個別の事例を、解釈・関連づけ・統合化するために、種々のアセスメントシートを使用し、個別指導を行う。	2通	90	3		○	○	○								
○		介護総合演習Ⅰ	利用者とのコミュニケーションを図りながら利用者の生活状況や生活リズム及びニーズの把握に努め、実習施設概要・基礎的な日常生活援助を理解する。実習に向けての動機づけ。	1前	30	1		○	○	○								
○		介護総合演習Ⅱ	利用者の特性に応じたコミュニケーションが図れるように事例を取り上げ、その方法について理解を深める。介護過程における情報収集・分析・統合から導き出されたニーズの捉え方を演習を通して学習する。	1後	30	1		○	○	○								
○		介護総合演習Ⅲ	個別のニーズを把握するための着眼点や観察方法について演習を通して学習する。介護実習の振り返りを行いより効果的な介護実習が行えるようにする。	2前	30	1		○	○	○								
	○	介護総合演習Ⅳ	個別の必要な情報の収集・分析・統合から生活課題を抽出し、立案・実施・評価・修正に至る一連の介護過程を実習を通して学習する。またその過程を研究し記録としてまとめ、発表する。	2後	30	1		○	○	○								
○		実習Ⅰ	訪問介護サービスや小規模多機能型居宅介護等サービスを含む居宅サービス等の施設での見学実習。利用者の生活の場である多様な介護現場において個別ケアを体験・学習する。	全	64	4			○	○								○
○		実習Ⅱ	介護福祉施設において、一定期間以上継続して実習を行う。1段階実習を1年次で行い、2年次で2段階、3段階の実習を体験・学習する。	全	400	25			○	○								○
○		こころとからだのしくみⅠ	介護実践に必用な観察力、判断力の基盤となる人間の心理を心理学等をもとに講義する	1前	30	2	○		○									○
○		こころとからだのしくみⅡ	介護実践に必用な観察力、判断力の基盤となる人体の構造・機能を解剖学、生理学、運動学等をもとに講義する。生活支援の場面に応じた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて講義する。	1通	60	4	○		○									○
○		こころとからだのしくみⅢ	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて講義する。	2通	30	2	○		○									○
○		発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を講義し、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について解説する。	1前	30	2	○		○									○

○		発達と老化の理解Ⅱ	老化にともなう心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を講義し、それらがどのように生活に影響を与え、生活を支援するための基礎的な知識を講義する。	1後	30	2	○			○		○		
○		認知症の理解Ⅰ	認知症の本質や原因となる疾患を解説し、認知症の症状・診断・治療・予防を講義する。	1前	30	2	○			○		○		
○		認知症の理解Ⅱ	本人主体の理念に基づいた認知症理念を解説し、認知症ケアの実際を講義する。家族支援に対して介護福祉士の役割を講義し、地域でのサポート体制を解説する。	1後	30	2	○			○		○		
○		障害の理解Ⅰ	障害のある人と向き合うための基本的な知識である障害者福祉の基本理念、障害者福祉制度を取り上げ、地域生活を支える社会資源、関係機関との連携、関係職種とのチームアプローチのあり方を解説する。さらに障害のある人を支える家族に焦点を当て、家族支援のあり方を講義する	1後	30	2	○			○			○	○
○		障害の理解Ⅱ	障害別の医学的・心理的側面の基礎的知識を講義し、特性に応じた支援を解説する。	2通	30	2	○			○		○		
○		医療的ケア	介護職員が医療職と適切な連携を図り、たんの吸引・経管栄養を安全かつ適切に行うための知識・技術を身につける。	全	65	3	○	△		○		○		

卒業要件及び履修方法

授業期間等

講義・演習時間数の3分の2以上出席し試験を受け、合格すること。  
実習時間数の5分の4以上出席すること。全ての単位を修得すること

1学年の学期区分	2期
1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。